

第13年度 オンライン開催

実践！ 信頼性・品質技術 研究会

経験豊富な講師・委員の指導
多様な業種の参加者メンバーとの議論や意見交換から…

問題解決の糸口を探り
スキルと人脈を得る！！

主催：一般財団法人 日本科学技術連盟

「実践!信頼性・品質技術研究会」参加のおすすめ

グローバル競争に勝ち抜く答えがここにある!

近年、科学技術の進歩や製造・生産の海外(特に新興国)へのシフト、マーケットのグローバル化に伴う顧客ニーズの多様化・使用環境や使われ方の変化・地球環境への配慮など、企業活動を取り巻く環境は著しく変化しています。また技術力向上が著しい新興国企業とのグローバル競争が激しくなる中で、共存/共栄を図る時代になっています。

品質・信頼性分野でも、機械・電気などの技術区分そのものが陳腐化する一方で、海外への生産委託や仕入れ先管理など品質管理のグローバル化が進み、QMS・ソフト品質・コンプライアンス・安全性の観点での品質保証の必要性が高まっています。

グローバル競争を勝ち抜くためには、品質・信頼性問題の解決が不可欠であり、材料・部品レベルまで遡った原因究明と対策、システム・マネジメントレベルでの問題解決や再発防止を図ることが重要になり、企業の品質・信頼性業務に携わる技術者には、より広く、より深い知識が求められるようになってきています。

本研究会は、様々な業種や企業の現場で実際に業務を行っている技術者が集まり、品質や信頼性に関する諸問題について、最新の事例や課題をベースに議論を行う場です。それぞれの研究分科会で、グローバルに「ものづくり」を進める先端企業の経験と知識を持った運営委員と共に、各企業の状況に合わせた最適なソリューションを一緒に導き出していきます。

タイトルに「実践!」とある通り、一般論ではなく実際に皆さんが抱えている課題を取り上げるのが本研究会の最大の特徴です。通常のセミナーのように受け身で情報を収集するのではなく、Give & Takeの精神で積極的に議論に参加して、自分のスキルを向上させたいと思っている方のご参加を強くおすすめいたします。



実践!信頼性・品質技術研究会
運営小委員会 委員長

平本 抽

ソニーグループ株式会社
R&Dセンター Tokyo Laboratory 28
General Manager

参加者の声

(ご所属は執筆当時: 2021年3月)

気付きを得るための貴重な場となっています。

進藤 丈明 様

TOTO株式会社
環境建材事業部
環境建材品質保証部
環境建材品質推進グループ
グループリーダー



RQ研究会には2017年度から参加しております。上司の代理で参加したことがきっかけです。初めて参加したとき、ボルトの緩みというテーマで様々な視点で意見交換をし、自らの知識の浅はかに気付かされたことを覚えております。

技術者であれば誰しも一度は解決困難な課題に直面したり、一応は課題解決したもののこの解決策で良かったのであろうか…という経験があると思います。その時このような課題は自社だけなのであろうか、他社ではどのように対応したのであろうかと思ったことはないでしょうか。課題は上位概念化すれば、共通なことも多く、他社から解決のヒントが得られることもあります。

RQ研究会は品質と信頼性に携わる技術者が約50社から集まっている研究会です。「実践」と名前がついているように、講演会のように受け身で聞くのではなく、自らが課題を持ち寄って議論や意見交換を行う場です。そのため、実際に自分が抱えている課題を参加者で議論することで解決につながっていく、また、参加者が抱えている課題の議論に加わることで自らの成長の糸口につながっていくことができます。

品質や信頼性の課題を抱えている皆様、是非一緒に議論や意見交換をしましょう。

参加者の声

(ご所属は執筆当時: 2021年3月)

社内の常識は非常識かも!?
他社事例からの気付きで改善を推進!

味岡 桃太郎 様

ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社
厚木テック
品質環境部門



私は本研究会の第4研究分科会に参加しており、QMS、リスクマネジメント、人材育成、再発防止手法、ナレッジ活用など、様々なテーマについて、各社メンバーと議論しながら情報を得る事が出来ています。

本研究会では、他社の様々な問題解決の事例を聞く事が出来ます。内容はかなり具体的で「目からウロコ」のヒントを得て社内環境に合わせてアレンジをしながら、実際に課題解決に貢献した事例も複数あります。

社内では過去からの経緯で常識だと思っていた考え方も実は他社と比べてみると、違う視点での色々な考え方や手法があると気付かされます。これは一つの会社の中では得る事が出来ない有益な知見だと思います。また、参加者は品証関係の組織の方も多く、「あるある」の話で盛り上がる事も多いです。

会社は違っても、良い品質を作り込みたいという熱意は皆さん同じでどこの会社も同じ様な悩みに向かって様々なやり方で戦っている、という仲間意識を感じる事もあり、モチベーションアップにも繋がっています。

社内では様々な課題解決が必要ですが、自社の知見だけでなく他社の事例をヒントにする事で、早く、質の良いアウトプットを出す事が可能になります。品質改善に悩んでいる皆さん、あなたが普段仕事をしている狭い世界から飛び出して視野を広げる事をオススメします!

参加されるみなさんが主役です!

参加者のみなさんから信頼性に関する諸問題を提起していただき、それを他の参加メンバーおよび研究会をサポートする信頼性専門技術者(運営委員)と議論する中で、問題解決の糸口を見出していきます。

各研究分科会は、“Give and Take”の精神に基づいて、相互に問題提起、事例発表を行い、議論します。研究会の性格上、秘密事項は除き、活発な議論を行っています。安心して議論を行うため、参加メンバー・運営委員は、本研究会内での議論の内容・知り得た情報等に関し、「守秘誓約」を交します。ここでしか聴けない真摯な“ホンネトーク”や“自身が抱える問題や課題の相談”ができるのは“本研究会ならでは”と言えます。

活動内容

本研究会はメンバーおよび運営委員により構成されています。

活動年度は毎年5月に始まり翌年3月に終了します。

本研究会のメンバーは、下記の研究会(例会)に参加して、研究活動を行います。

年間活動スケジュール

参加者同士のネットワークづくりのため、コロナ禍の状況を鑑み、集合形式(日科技連・東高円寺ビル)で開催する場合があります。また、実施内容は、都合により内容が変更となる場合があります。

開催日	開催形式	活動内容			
		10:00 ~ 12:00		13:00 ~ 16:00	
2023年	5月26日(金)	オンライン	オリエンテーション	研究活動の紹介	研究分科会
	6月16日(金)	オンライン	全体研究会	特別講演会	研究分科会
	7月28日(金)	オンライン	テーマ別分科会(ワークショップ)		研究分科会
	9月15日(金)	オンライン	全体研究会	特別講演会	研究分科会
	11月17日(金)	オンライン	研究分科会		研究分科会
2024年	1月19日(金)	オンライン	研究分科会		研究分科会
	3月 1日(金)	オンライン	テーマ別分科会(ワークショップ)		研究分科会

※集合開催の場合、開始時刻は10:30 ~に変更する場合があります。

— オンラインで「積極性」や「参加意欲」は保てる？

コロナ禍により、この3年で培ったオンライン研究会のノウハウをさらに進化させてまいります。双方向のオンラインツールを使用し、カメラをonにすることで参加メンバー、運営委員ともに表情が確認できますので、程よい緊張感と集中力が保たれ集合開催と変わらない活発な討議が可能です。また、集中力を保てるよう、こまめに休憩を挟み進行します。



1 密を避けて安全に参加できる!

コロナ禍でも異業種の方と交流ができ、社内研修では得られない刺激が得られます



2 移動時間や交通費がかからない!

交通費・宿泊費など、開催地の問題で参加・派遣をあきらめていた方も参加できます



3 参加率アップ!

インターネットの環境とパソコンがあれば、場所を選ばず参加できるので、会社からでもリモートワークでも出席できます

1 全体研究会

メンバーと運営委員が一堂に会する「全体研究会」では、特別講演、質疑応答を通じてメンバー相互の啓発、交流を図ります。全体研究会は「特別講演」を中心に6月と10月の2回開催します。

年	過去特別講演テーマ、講演者
第12年度 (2022年)	信頼性物理ベースの考察で次世代の信頼性課題に対応 門田 靖 氏(㈱リコー 先端技術研究所 HDT研究センター 設計基盤開発室 シニアエキスパート) 品質不祥事を起こさせない実効的な方策とは～「日本品質」への信頼を取り戻すために～ 南波 裕樹 氏(大成設備株式会社 常勤監査役)
第11年度 (2021年)	ソフトウェア品質の実際 小池 利和 氏(ヤマハ㈱ 品質保証部 グローバル品質戦略グループ 主幹) 「マニュアル」をナメるな! 職場のミスの本当の原因 中田 亨 氏(中央大学 大学院理工研究科 客員教授)
第10年度 (2020年)	選択と集中による開発革新 人見 光夫 氏(マツダ㈱ シニアイノベーションフェロー)

2 研究分科会

※都合により内容が変更になる場合がございます。

研究分科会は、本研究会活動の中心であり、参加メンバーが主役で開催月の7回全ての回で実施します。分科会の構成は、「メカ」や「エレキ」といった技術領域のポードレス化に伴い、「材料」や「マネジメント」「システム」など、信頼性技術の原理・原則的な色合いの濃い構成にしています。

- 【第1研究分科会】 材料・部品解析分科会
- 【第2研究分科会】 部品・デバイス(電子部品)分科会
- 【第3研究分科会】 機器・システム分科会
- 【第4研究分科会】 品質保証分科会



「研究分科会」では、参加メンバーのみなさんが抱える様々な信頼性に関する諸問題について、事実やデータを交えて運営委員とともに議論します。問題を正確に把握し、具体的な改善策や解決方法を考えていくといった実践的な信頼性の展開を図るのが大目的です。

したがって第1～第4の分類は、あくまで主として議論したいテーマであり、関連して改善したい内容に発展したり、一見脇道にそれたように思える議論を自由闊達に交わすことも、本分科会においては重要なことと考えています。また、第4研究分科会は品質保証担当者、責任者が集い、QA・QCに関する情報交換を活発に行っています。

3 テーマ別分科会(講演・ワークショップ)

「テーマ別分科会」は、「研究分科会」とは別の視点から選定した信頼性・品質保証テーマについてのワークショップです。自由な発想でメンバー、運営委員から提案していただいた興味あるテーマの中から、3～5のテーマを設定し、希望の「テーマ別分科会」に参加します。また、メンバーからの要望があれば、2つの研究分科会による「合同分科会」を開催することも可能です。2020年度は第1研究分科会と第2研究分科会、第3研究分科会と第4研究分科会による「合同分科会」を開催し、両分科会にまたがる領域のテーマについて議論を深めることができました。

「テーマ別分科会」「合同分科会」ともに、通常の研究分科会と同じくメンバー参加型で、事例やデータを持ち寄って議論をします。自分の属している「研究分科会」以外の研究分科会メンバーや運営委員と、異なる側面から信頼性の諸問題を議論し、解決方法を考えていくことができ、見聞を大いに広めることができます。

●「テーマ別分科会」実施テーマ

第12年度(2022年)	第11年度(2021年)	
信頼性試験/評価のあるべき姿(その試験条件の由来や根拠は?)	想定外へ対応する～with/after コロナにおける信頼性技術(と品質保証)	サイレントチェンジと変化点管理
ワイブル分析の活用	車載用電子部品に求める信頼性設計と認定評価	海外部品の品質・信頼性問題
設計プロセスの改革(DX、運用効率化、市場データIT化)	信頼性評価の目的とデータの活用(設計&評価)	信頼性試験と市場データ
品質問題の実効性のある未然防止策(失敗学、なぜなぜ分析、FMEAなど)	品質不正はなぜ起こるのか	QMSがあっても品質不正はなぜ起きるのか?

●「合同分科会」実施テーマ

第10年度(2020年)
材料分析、故障解析
品質人材育成
魅力ある品質保証部になるためには～DXへの取り組み～

研究分科会・活動紹介

(敬称略、順不同 委員所属はP.8参照)

第1研究分科会 材料・部品解析分科会

主査 小原田 一真 副主査 平本 抽 委員 木村 忠正、大西 久男

本分科会では、材料・部品の解析技術を切り口に、メンバーが持ち込む信頼性や品質の諸問題の本質は何か、最適な分析・評価手法とその原理、得られた結果からどのように考え解釈するのか、幅広い業界・分野の技術者が集い、時には部材の劣化挙動にまで遡って全員で討議を行っています。

例えば、不具合事例を前に、みなさんはどんなストーリー（仮説）を描き、どんな検証（分析）を選択して、その結果をどのように考察し、相手に伝えようとしていますか。先例を学び、異なる視点での議論に触れることで、より多くの解析の道筋を見つけることができます。

初回に、参加メンバー各自が抱える課題や疑問、要望など踏まえて以降の討議テーマを設定します。2回目以降では、各回テーマに関連した事例を持ち寄って頂き、全員で共有し議論します。また、今まさに直面している喫緊の業務課題など突発的な事例もその都度取り上げます。これまでのテーマ例を以下に示します。

①故障／劣化のモードやメカニズム

銅や銀など電極材料の腐食・剥離・マイグレーション、可塑剤の揮発や応力による破断など樹脂材料の劣化・変色・アウトガス、部品への加熱・吸熱・振動等

②分析技術／計測技術

形態観察(SEM, X線CT, SAT)、表面分析(EDX, XPS, AES)、化学分析(FT-IR, GC/MS)、熱分析(DSC, TG-DTA, TMA)等

③信頼性評価方法

疲労・衝撃・腐食試験、加速試験／寿命予測、シミュレーション・AI活用、統計管理等

④解析マネジメント

基礎概念～新規手法、技術の認定や伝承、人材の育成、標準化、スキルマップ等

スライド1枚でも文章1行でも、自ら積極的な発信と、メンバーの発表に対しての積極的な応答により、相互に価値ある人の繋がりが得ることができます。原理原則に従って状況を正しく理解し、適切な評価検証を行い、得られたデータの意味を的確に論ずることができる、製品の品質保証に役立つ“解析”力を一緒に培っていきましょう。

第2研究分科会 部品・デバイス(電子部品)分科会

主査 山口 浩二 副主査 三井 直人 委員 柏木 謙一、瀬戸屋 孝、横川 慎二

本分科会は、エレクトロニクス製品に使用される部品に焦点を当てた研究分科会です。

デバイス・電子機器・ユニット・材料の各メーカー、企業それぞれの立場から、本音で議論できるクローズドでユニークな分科会です。

運営委員は、国内デバイスメーカー、電子機器メーカーの品質・信頼性について豊富な経験を持った方々が担当し、参加されるメンバーは、設計・技術・生産・購買・品質保証・品質管理を実践している技術者の方々で構成されています。

取り扱うテーマは、「部品・デバイスの品質・信頼性技術全般」です。

①定例テーマ討論

初回に討論したいテーマを発言いただき、回ごとの主テーマを定めます。2回目以降は、そのテーマに従って、自社での取り組みや事例などを参加メンバー持ち回りで発表し合う形式で討論を進めさせていただきます。内容によって、本分科会で十分に討論がしきれない場合は、テーマ別分科会や他分科会との合同討論の実施などで、柔軟に対応させていただきます、幅広い討論を行います。

②緊急テーマ討論

直面している電子機器や電子部品で起こっている品質・信頼性の具体的な問題を持ち寄り、幅広い知見に基づいた多面的な議論を行うことで、報告書に明記されることのない真の原因や、その解釈、波及性などを検討します。

事前に課題を分科会のメーリングリストで発信いただければ、参加メンバーが参考情報を持ち寄り、活発な議論が行われます。

③討論テーマのご紹介

昨年度、様々な議論を行いました、そのキーワードの一例をご紹介します。

- 各種部品固有の品質・信頼性問題
- 認定制度・生産終了品・部品調達難の対応方法・海外部品の採用と諸問題
- 電子部品の実装に関する信頼性(電子部品の小型化、等)
- 品質とコストのバランス
- 信頼性試験・加速試験・ワイブルの正しい使い方

研究会は、参加いただくメンバーみなさんが主役です。議論内容を持ち寄ることによって、研究会を通じて相互理解を深め、多様な知見から問題解決力を身につけていきましょう。

第3研究分科会 機器・システム分科会

主査 岩下 健児 副主査 勝田 信 委員 原島 瑞靖

本分科会は、システム製品をお客様に提供するために日々奮闘する機器システムメーカーのエンジニアが集い、日常の疑問点の解明や新たな視点を見つけ出す技術的活動になります。

取り扱っている製品は個別部品の集合体であり、この集合体であることが物事を難解にしています。例えば、品質・信頼性の高い部品・材料を使えば品質・信頼性が確保されるとは限りません。一方で、品質・信頼性が並な部品・材料からでも、高信頼性を有したシステムは構築可能です。つまり、保全が定期的実施されるシステムにおいては、先端半導体部品よりも、旧式リレーを使う方が高アベイラビリティを実現できる分野もありますし、部品の信頼性の総和を超える信頼性を達成する、巨大システムであっても、重大事故を起こさないように信頼性を作りこむことが、信頼性技術者の腕の見せ所と言えるでしょう。

ここでポイントとなるのが、「対象となるシステムをどのように捉えるか」ですが、本分科会では、各種電子機器・メカトロニクス製品・住宅機器・鉄道などのエンジニアが、業界をまたがり横断的に論議します。また、それらの議論を通して、多岐にわたる分野やそれぞれの業界の知見に触れることは、参加されるメンバーの気づきとなり、メンバーの課題解決の一助となること間違いありません。

論議内容としては、参加メンバーの関心があるテーマを題材に、モノづくりにおけるみなさんが日常的に抱える課題に対して、対象製品にとどまらず製品を取り巻く上位システム（社会インフラまで）との関係性まで視野に入れたものを幅広く取り扱います。

昨年度の取り組みではまず初回に、メンバーから集めた論議したい内容を親和化→分類して年間のテーマを決めます（下記昨年度テーマ）。メンバーそれぞれが興味深いテーマの担当となり、当日テーマに沿って話題を紹介いただくことで、そこから議論の輪が広がっていきます。テーマ以外にも悩みがあれば随時相談を受付けています。

- 第1回 皆様からの希望議題を抽出します。
- 第2回 設計プロセスの改革（DX、運用/効率化、通常プロセスとの違い）
- 第3回 設計プロセスの改革（続き、市場データ、異文化コミュニケーション）
- 第4回 試験、評価、解析
- 第5回 生産関連、監査、ユーザー（客先）
- 第6回 巨大システム（鉄道システムの信頼性、人材育成）
- 第7回 試験、評価、解析（2回目）

この中でもDX（デジタルトランスフォーメーション）に関しては、信頼性からの切り口として継続して取り上げたい課題です。斯様な活動しておりますので、自社で日頃から悩んでいることを、参加企業のメンバーと論議していくことでヒントを見つけていただきたく思います。

ぜひ、みなさんのご参加をお待ちしております。

第4研究分科会 品質保証分科会

主査 木村 功 副主査 山森 英一 委員 向井 剛、山下 恭幸

本分科会では、品質保証・QMSの考え方や組織機能に関するテーマ、品質管理・信頼性技術の手法等の管理技術的テーマを討議する分科会です。

研究会メンバーには、コーポレートや事業の品質保証部門に所属されている方が多く参加されています。コーポレートの立場や事業部の立場から品質保証や品質管理に関する課題を題材に、課題に対する各社の取り組み事例を紹介いただき情報共有し、改善の方向性を討議しています。

主な討議テーマは以下のとおりです。

①品質保証体制／QMS

品質保証は製品開発から日常管理までの各段階で各部門が行う活動です。如何に品質保証活動のPDCAを回しスパイラルアップを図るかをテーマに議論します。

品質保証体制（品質保証部門の組織体制・全社統制構造）、再発防止・未然防止（製品保証計画・PPAP）、市場品質情報処理（体制・システム）、QMS外部・内部監査（リモート監査・監査員教育・海外工場の監査）

②変更点・変化点による品質問題の再発防止・未然防止

変更点・変化点からの市場問題を出さない為に品質管理ツールの上手な活用方法をテーマに議論します。

再発防止手法（なぜなぜ分析・FTA・過去トラDB等）、未然防止手法（設計・工程FMEA・DRBFM・SSM等）、統計的品質管理（SQC）、信頼性技術手法（ワイブル解析等）、リスク分析手法

様々な製品が海外で生産され、かつ、自社生産以外の部品や材料を調達して、品質管理や品質保証を行っている中で、現場で起きている問題や課題をどう解決するか、を議論します。

③品質技術者の育成と品質管理教育

技術伝承や人材不足というような視点からの品質人材育成や品質管理教育、新規事業や新規領域での品質保証の進め方等の議論をします。

本研究会のような異業種の品質保証部門の方達が集まる場は多くありません。「品質保証とは何ぞや」を考え、明日の品質保証のありたい姿を一緒に議論しましょう。みなさまのご参加をお待ちしております。

参加会社一覧 (本研究会の前身「RDT研究会」の参加会社含む)

160社を超える企業のみなさんに参加いただいています!

愛三工業(株)	新電元工業(株)	日本モトローラ(株)
(株)アイシン	新日鐵住金ステンレス(株)	(社)日本冷凍空調工業会
アイシン精機(株)	新日本無線(株)	(株)ノーリツ
アイシン・エイ・ダブリュ(株)	GEヘルスケア・ジャパン(株)	(株)ハイオス
愛知時計電機(株)	スタンレー電気(株)	ハリソン東芝ライティング(株)
(株)アイテス	住友電気工業(株)	パナソニック(株)
アイホン(株)	住友大阪セメント(株)	パナソニックコミュニケーションズ(株)
アイワ(株)	住友ベークライト(株)	パナソニック電工(株)
旭化成(株)	セイコーインスツル(株)	パナソニック電工施設照明(株)
旭化成エレクトロニクス(株)	セイコーエプソン(株)	(株)日立小平ケミコン
旭化成マイクロシステム(株)	積水化学工業(株)	(株)日立製作所
アジレント・テクノロジー(株)	ソニー(株)	福島アビオニクス(株)
アズビル(株)	ソニーイーエムシーエス(株)	富士ゼロックス(株)
(株)アマダミヤチ	ソニーイメージングプロダクツ&ソリューションズ(株)	富士ゼロックスエンジニアリング(株)
アンリツ(株)	ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ(株)	(株)富士通研究所
アンリツネットワークス(株)	ソニーグループ(株)	富士電機(株)
(株)イシダ	ソニーセミコンダクタソリューションズ(株)	富士電機アドバンステクノロジー(株)
上田日本無線(株)	太陽誘電(株)	富士電機システムズ(株)
宇宙開発事業団	タカラスタンダード(株)	プライムアースEVエナジー(株)
エイブリック(株)	館山デバイス(株)	ブラザー工業(株)
エスアイアイ・セミコンダクタ(株)	ダイキン工業(株)	古河電気工業(株)
エスベック(株)	ダイキン電子部品(株)	古野電気(株)
NTTエレクトロニクス(株)	ダイニチ工業(株)	(株)本田技術研究所
(株)LSI Logic Japan Semiconductor	(株)ダスキン	松下電器産業(株)
OLED青森(株)	(株)タムラ製作所	松下電工(株)
大阪ガス(株)	TDK(株)	松下冷機(株)
大崎電気工業(株)	(株)ディスコ	マレリ(株)
沖エンジニアリング(株)	テンカ(株)	三菱ガス化学(株)
沖電気工業(株)	(株)デンソー	三菱重工業(株)
オムロン(株)	(株)デンソーウェーブ	三菱電機(株)
オムロンアミューズメント(株)	(株)東海理化	(株)村田製作所
オムロンセミコンダクターズ(株)	東光(株)	(株)モリック
オムロンヘルスケア(株)	(株)東芝	森山工業(株)
オリエンタルモーター(株)	東芝デバイス&ストレージ(株)	矢崎部品(株)
オリンパス(株)	TOTO(株)	矢崎計器(株)
鹿島建設(株)	東北日本電気(株)	(株)安川電機
(株)金沢村田製作所	東洋通信機(株)	(株)山武
(株)カネカ	(株)トキメック	ヤマハ(株)
カヤバ工業(株)	トステム(株)	ヤマハ発動機(株)
カルソニックカンセイ(株)	トヨタ自動車(株)	ヤマハマリン(株)
関西電力(株)	(株)豊田自動織機	ヤマハモーターエレクトロニクス(株)
菊水化学工業(株)	ナイルス部品(株)	ヤンマー(株)
キーサイト・テクノロジー・インターナショナル(同)	ナプテスコ(株)	(株)ヨコオ
キヤノン(株)	日産自動車(株)	横河電機(株)
九州松下電器(株)	日産車体(株)	Lattice Semiconductor
グローブライド(株)	日新電機(株)	(株)リコー
グローリー(株)	(株)ニデック	(株)ルネサス小平ケミコン
京セラSLCテクノロジー(株)	日本アイ・ビー・エム(株)	(株)ルネサステクノロジ
(株)ケアコム	日本アビオニクス(株)	ローム(株)
コニカミノルタ(株)	日本特殊陶業(株)	
(株)小松製作所	日本ガイシ(株)	
コクヨ(株)	日本電気(株)	
コクヨS&T(株)	日本パナトロン(株)	
三洋電機(株)	日本フィリップス(株)	
(株)JVCケンウッド	日本プレジジョン・サーキット(株)	

※会社名は参加当時の社名を掲載 (2022年12月作成)

第13年度運営委員(順不同・敬称略)

(2022年12月現在)

本研究会を支える委員の皆様です。品質・信頼性・品質保証に関わるスペシャリスト集団であり、貴重な最新情報の発信、的確なアドバイス、ファシリテートを行います。

役割	研究分科会		委員名	会社名
委員長	第1	副主査	平本 抽	ソニーグループ(株)
副委員長	第2	主査	山口 浩二	富士電機(株)
副委員長	第3		原島 瑞靖	富士フイルムビジネスイノベーション(株)
委員	第1		大西 久男	大阪ガス(株)
委員	第1	主査	小原田一真	(株)東レリサーチセンター
委員	第1		木村 忠正	電気通信大学名誉教授
委員	第2		柏木 謙一	日産自動車(株)
委員	第2		瀬戸屋 孝	(一財)日本電子部品信頼性センター
委員	第2	副主査	三井 直人	三菱電機(株)
委員	第2		横川 慎二	電気通信大学
委員	第3	主査	岩下 健児	アンリツ(株)
委員	第3	副主査	勝田 信	日本信号(株)
委員	第4	主査	木村 功	TOTO(株)
委員	第4		向井 剛	三菱重工業(株)
委員	第4		山下 恭幸	ヤマハ発動機(株)
委員	第4	副主査	山森 英一	(株)東芝

参加要領

◆活動期間◆ 2023年5月～2024年3月

◆開催日程◆
(年7回)

回数	開催日
第1回例会	2023年 5月26日(金)
第2回例会	2023年 6月16日(金)
第3回例会	2023年 7月28日(金)
第4回例会	2023年 9月15日(金)

回数	開催日
第5回例会	2023年11月17日(金)
第6回例会	2024年 1月19日(金)
第7回例会	2024年 3月 1日(金)

◆開催形態◆ **オンライン(会議ツール「Microsoft Teams」)** ※ツールに障害が発生した場合は「Zoom」を使用します。参加者同士のネットワークづくりのため、コロナ禍の状況を鑑み、集合形式(日科技連・東高円寺ビル)で開催する場合があります。また、実施内容は、都合により内容が変更となる場合があります。

◆参加費◆ **一般・会員とも 121,000円(税込) / 1名**

■2022年度(12RQ)研究会からの継続企業 110,000円(税込) / 1名
組織の人材育成教育の継続と、個人のステップアップ、ブラッシュアップのために「継続参加」を強力にサポートしております。継続参加企業様特典をご利用ください。

本研究会メンバー特別特典

2023年7月13日～14日に開催する「信頼性・保水性・安全性シンポジウム」に特別参加費で参加できます! 参加費 41,800円のところ→特別参加費 19,800円(税込/1名)

◆申込方法◆ **研究会Webサイト「参加要領・申込」からお手続きください。**

※参加費のお支払いについて

請求書は、連絡担当者様宛に開催までに郵送でご送付いたします。

参加費は、原則として請求書発行日から2ヵ月以内に指定の銀行口座または郵便振替口座(請求書に記載)にお振込みください。

研究会お申込に関するキャンセルの取り扱いとお願い

研究会にお申込み後、やむを得ない事由により、参加者の都合が悪くなった場合には、できるだけ代理の方のご参加をお願いいたします(ただし、研究会活動期間中での参加者変更は不可)。

お客様の都合で参加をキャンセルされる場合にはセミナー受付にE-mailで研究会第1回例会参加の前にご連絡をお願いいたします。その際、ご連絡日より、次のキャンセル料をご負担いただきますこと予めご了承ください。

【キャンセル料】○営業日前とは、土日祝祭日、日科技連の休業日を除いた日数のことです。

・研究会第1回例会開催日の7～1営業日前の17:00までのキャンセル:参加費の50%

・研究会第1回例会開催日の1営業日前の17:00以降のキャンセルまたは事前のご連絡がなかった場合:参加費の100%

◆内容についてのお問合せ◆

一般財団法人日本科学技術連盟 RQ研究会担当 TEL: 03-5378-9850 / E-Mail: re-group@juse.or.jp